

教員等業績一覧（2016年度）

○五十嵐泰正

【書評】

- ・谷富夫著『民族関係の都市社会学——大阪猪飼野のフィールドワーク』評、『社会と調査』第17号，2016年9月，p.121.

【ウェブ記事】

- ・（インタビュー，石戸諭の署名記事）「TOKIO の福島産小麦に「人殺し」 危険論は，なぜ繰り返されるのか？」『BuzzFeed News』2016年3月22日，https://www.buzzfeed.com/satoruishido/fukushima-trust?utm_term=.tbZXXj70vv#.nuGzz7Gvaa.
- ・「ポスト3.11の「安心」のかたち ～異なる立場の住民同士が話し合うことから生まれた安心感～神奈川県立多摩高校オーサービジット」『みらいぶ+（河合塾）』，2016年10月，<https://www.milive-plus.net/gakumon170101/>.

【学会報告，講演など】

- ・「社会学の視点から見た上野」『上野街づくりビジョン会議 準備会合』上野区民館，2016年7月27日.
- ・「「上野らしさ」の社会学——分析と提案」『上野街づくりビジョン会議 準備会合』上野区民館，2016年10月26日.
- ・（小松理虔，大橋摩周との討議）「常磐線中心主義刊行記念ナイト III」Cafe Live Wire，2016年11月2日.
- ・（小松理虔との対談）「伝えようとする事．一原発をめぐる分断を越えて—」『比文プロジェクト』筑波大学，2016年12月7日.
- ・「3.11後の「文系」に何が求められていたのか」『人文社会系研究発信月間ファイナルシンポジウム』筑波大学東京キャンパス，2016年12月10日.

【メディア出演】

- ・『文化系トークラジオ LIFE ここに住みたい～これからの『住む場所』の選び方』TBSラジオ，2016年2月28日.

○奥山敏雄

- ・「宗教的ケアとスピリチュアルケア」『社会学ジャーナル』第42号，筑波大学社会学研究室，2017年， 頁.

○土井隆義

【著書】

- ・『わたしの生きづらさは何処にある？ かれらの生きづらさは何処にある？』
2017年1月31日，日本YMCA同盟（YMCAスタディシリーズ⑥）.

【編書論文】

- ・「比較から生まれる新たな知見」鳥越皓之・金子勇編『現場から創る社会学理論～思考と方法』第13章，150～160頁，2017年1月20日，ミネルヴァ書房
- ・「ネット・メディアと仲間関係」秋田喜代美編『変容する子どもの関係』第4章，101～128頁，2016年7月，岩波書店.

【雑誌論文】

- ・「現代思春期の友人関係－社会の流動化と承認不安－」『外来小児科』第19巻（第3号），292～296頁，2016年11月20日，日本外来小児学会.
- ・「いじめ問題は どう変わったのか？－その歴史の変遷と社会的背景－」『臨床心理学』第16巻（第6号），657～662頁，2016年11月10日，金剛出版.
- ・「リスク回避する若年層，危険回避する高齢層－一般刑法犯検挙人員の動向が意味するもの－」『犯罪社会学研究』第41号，10～25頁，2016年10月，日本犯罪社会学会
- ・「ネット社会の人間関係－少年事件の背後にあるもの－」『更生保護』第67巻（第10号），7～12頁，2016年10月15日，日本更生保護協会.
- ・「ネット時代を生きる若者の問題行動－デジタル・ネイティブの人間関係－」『月刊生徒指導』第46巻（第12号），14～17頁，2016年11月1日，学事出版.
- ・「少年刑法犯はなぜ激減したのか？－社会緊張理論と文化学習理論の視座から－」『青少年問題』第663号，18～25頁，2016年7月，青少年問題研究会.
- ・「友だち関係のつまずきを恐れる子どもたち」『児童心理』第70巻（第8号），1～10頁，2016年5月，金子書房.

【学会報告】

- ・「「いじり」と「いじめ」のあいだ－現代思春期の友人関係をめぐる光と影－」佛教大学総合研究所「いじめの実態と児童・生徒への支援のあり方に関する総合的研究」公開シンポジウム基調講演，2016年12月23日，佛教大学.
- ・「非行少年をめぐる視線の構図－再非行少年率の高さを考える－」立教大学コミュニティ福祉研究所・国際シンポジウム「少年司法と子ども・若者育成支援－国際比較を通して考える－」，2016年10月22日，立教大学.
- ・「少年刑法犯の動向と眼差しの構図－再犯の抑止機能から考える－」日本犯罪社会学会 第43回大会・テーマセッションE「少年法適用年齢引き下げ」2016年10月29日，甲南大学.
- ・「少年犯罪の動向と眼差しの構図－社会緊張理論と文化学習理論から考える－」

【その他】

- ・「映画「君の名は。」のヒット－現代人の憧憬を映し出す－」『北海道新聞』各自核論（7面），2017年2月18日.
- ・「幸福感をめぐる光と影（5）－人生観の萎縮と幸福感の増大－」『日本教育』第462号，24～25頁，2017年2月1日，日本教育会.
- ・「承認依存の時代における自己像をめぐる」斎藤環『承認をめぐる病』解説，330～338頁，2016年12月10日，ちくま文庫.
- ・「幸福感をめぐる光と影（4）－価値観の多様化と仲間集団の変容－」『日本教育』第462号，22～23頁，2016年12月1日，日本教育会.
- ・「ネット世代のコミュニケーション－LINEを駆使する若者たち－」内閣府政策統括官編『青少年育成支援読本』，第11章，119～123頁，2016年12月1日，内閣府.
- ・「貧困問題への視点－教育環境の提供こそ必要－」『北海道新聞』各自校論（7面），2016年11月5日.
- ・「〈ぼっち〉を忌避する若者たち－つながり依存から生ずる青少年問題－」全国少年警察ボランティア協会編『インターネット利用に係る非行及び被害防止対策セミナー』第1章，4～23頁，2016年11月10日，全国少年警察ボランティア協会.
- ・「〈ぼっち〉を忌避する若者たち－つながり依存から生ずる青少年問題－」『みちびき』第144号，4～5頁，2016年10月1日，全国少年警察ボランティア協会.
- ・「幸福感をめぐる光と影（3）－コミュニケーション力偏重の時代－」『日本教育』第460号，22～23頁，2016年10月1日，日本教育会.
- ・「「悟り」世代の光と影」『ニューサポート高校国語』第26巻，2～3頁，2016年10月1日，東京書籍.
- ・「ネット・トラブルをめぐる虚と実」『2016年版・保健総合大百科』，170～172頁，2016年4月15日，少年写真新聞社.
- ・「幸福感をめぐる光と影（2）－人間関係に対する不安の強まり－」『日本教育』第458号，22～23頁，2016年8月1日，日本教育会.
- ・「少年法の適用年齢引き下げ論，尽きぬ疑問」『北海道新聞』各自核論（6面），2016年7月16日.
- ・「幸福感をめぐる光と影（1）－人間関係に満足な子どもの増加－」『日本教育』第456号，22～23頁，2016年6月1日，日本教育会.
- ・「危険をはらむ「承認欲求」－アイドル刺傷事件から見えるもの－」『読売新聞』解説面（11面），2016年6月1日.
- ・「常識破りの世界観を伝える－リンドグレーン『長くつ下のピッピ』から－」『筑

波大学新聞』第328号，5面，2016年5月16日，筑波大学。

- ・「子ども観の揺らぎと現代社会－大村敦志ほか編『子ども法』に寄せて－」『書齋の窓』第645号，42～46頁，2016年5月1日，有斐閣。
- ・「つながり依存になりやすいわけを考えてみよう！」『ネット依存にならないために』4～7頁，2016年4月15日，日本教育情報化振興会。
- ・「子どもとSNSのリアルな関係」ウェブサイト『Kidsnet for Parents』（全4回），2016年4月8日，15日，22日，29日，学研。

○野上 元

【著書】

- ・好井裕明・関礼子編『戦争社会学』明石書店
（執筆部分：第2章「大衆社会論の記述と「全体」の戦争——総力戦の歴史的・社会的性格」）
- ・貞包英之・元森絵里子・野上元『自殺の歴史社会学』青弓社
（執筆部分：第5章「自殺に対応する——さまざまな現場，無意識の協働」）

【報告】

- ・「歴史が聞こえてくること－方法的ラディカリズムと歴史への愛」
日本オーラル・ヒストリー学会第14回大会「保荊記念シンポジウム」2016年9月3日(土)一橋大学佐野書院

【講演】

- ・世田谷市民大学土曜講座「戦争の記憶と私たちの現在（全6回）」2016年9～11月

【その他】

- ・（書評）「高山真著『<被爆者>になる』（せりか書房，2016年）」『図書新聞』3282号，2016年12月10日。
- ・（連載）「近現代史の社会学（25～33回）」光文社新書メールマガジン76～85号
- ・（出演）「戦争を社会学で考える－「古い戦争」から「新しい戦争」まで」BSフジ『ガリレオX』2016年9月25日。
- ・（記事）「戦争「ある」から議論始める－「戦争社会学」学術誌創刊へ」東京新聞11月4日特報面。

○黄 順姫

【原著論文】

- 1 「女性ファッション雑誌における化粧品広告の戦略と機能」、『社会学ジャーナル』筑波大学社会学研究室，第42号，2017年3月，23—78頁。

【報告書・その他】

- 1 「後期近代における学校の『転換戦略』としての『開放的同窓生ネットワーク』, 日本教育社会学会編『日本教育社会学会第68回大会発表要旨集録』, 名古屋大学, 2016年, 250-251頁.
- 2 「日本・韓国の教育が構築する学校的身体と同窓つながり」, テーマセッションⅡ「学校化される子ども・若者の身体」『日本子ども社会学会第23回大会発表要旨集録』, 琉球大学, 86-87頁.

【学会研究発表・基調講演活動】

- 1 「後期近代における学校の『転換戦略』としての『開放的同窓生ネットワーク』, 日本教育社会学会第68回大会発表, 名古屋大学, 2016年, 9月17日.
- 2 「日本・韓国の教育が構築する学校的身体と同窓つながり」, テーマセッションⅡ「学校化される子ども・若者の身体」, 日本子ども社会学会第23回大会発表, 琉球大学, 2016年6月4日.
- 3 「高校・大学の活性化のための『社会的資本』の活用」, 『日本高校教育学会』(北海道支部会)基調講演, 北海道大学, 2016年, 11月19日.

【産学連携・高大連携活動】

- 1 (コーディネーター, 主催), 「世界変動で親・子が知るべき進学・就職・ライフスタイルのダイバーシティー親・子・指導者・大学生の自己マネジメントのための相談会-」筑波大学メンター会第22回大会, BiVi筑波大学サテライトオフィス, 2016年5月14日(常陽新聞, 5月17日, 2面, 記事報道).
- 2 (コーディネーター, 主催), 大学・地域・スポーツクラブの連携事業講演, 筑波大学メンター会第23回大会, 石川慎之助「サッカークラブをつくるということ」(株式会社つくばFC 代表取締役), 筑波大学1C210, 2016年, 5月19日.
- 3 (コーディネーター, 主催), 「つながりが生み出すもの -人, モノ, カネ, 癒しと再生-」筑波大学メンター会第24回大会, グランド・セントラル, 2016年9月23日(茨城新聞, 2016年10月3日, 19面, 記事報道).

○森 直人

【書評等】

- ・書評「野村正實『学歴主義と労働社会：高度成長と自営業の衰退がもたらしたものの』(ミネルヴァ書房, 2014年)」『大原社会問題研究所雑誌』692号, 61-65頁, 2016年6月.
- ・書評「河野貞博 [著]『戦後日本の教育構造と力学：『教育』トライアングル神話の悲惨』(東信堂, 2015年)」『教育社会学研究』第99集, 105-107頁, 2016年11月.

- ・ 課題研究報告「戦後の教育政治を問い直す」『教育社会学研究』第98集，270－273頁，2016年5月。

【口頭発表】

- ・ 「社会調査データの復元による計量社会史の試み」二次分析研究会2016課題公募型研究成果報告会「戦後日本社会における福祉社会の形成過程にかんする計量社会史」，2017年3月28日，於：東京大学本郷キャンパス。
- ・ 「『多様な教育機会を考える会』の経緯と今後の展望」第1回多様な教育機会を考える会，2016年4月23日，於：上智大学。
- ・ 「日本における「教育の私的収益率」の概観」教育コンソーシアム・ことよさしの会2016年度研修セミナー・鼎談『教育投資の有効性と変わる家庭像』（稲葉振一郎，杉山真砂美），2016年8月19日，於：千本松・沼津倶楽部。
- ・ 「『多様な教育機会を考える会』の経緯と今後の展望」第1回多様な教育機会を考える会，上智大学四谷キャンパス，2016年4月23日

○赤羽由起夫

【論文】

- ・ 「少年非行問題における『普通』——新聞記事の分析を通じて」『現代の社会病理』第31号，109－125頁，2016年9月。

【学会報告】

- ・ 「機能主義と知識社会学——少年犯罪報道の心理主義化をめぐる」，日本社会病理学会第32回大会，テーマセッション「社会病理学の超克のために——若手会員の視点」報告，福岡県立大学，2016年9月25日。

○穂山 新

【論文】

- ・ 「協同組合と救貧事業——于樹徳の合作社思想と農村自治」『社会学ジャーナル』第42号，筑波大学社会学研究室，2017年，79－101頁。

【書評】

- ・ 「陳立行著『当代中国失去了什麼？』（全球中国出版社，2015年）」『日中社会学研究』第24号，2016年。
- ・ 「沈潔・澤田ゆかり編著『ポスト改革期の中国社会保障はどうなるか』（ミネルヴァ書房，2016年）」『ニュースレター』No. 24，同志社大学社会福祉教育・研究支援センター，2017年，15－17頁。

【学会報告】

- ・「日本と中国の協同組合と農村救済——比較歴史社会学的考察」日中社会学会第28回大会，長崎ブリックホール，一般研究報告，2016年6月5日．

大学院生（国際公共政策専攻）業績一覧（2016年度）

○秋本光陽

【学会報告】

- ・「コントロール理論における『家族の社会性』」日本社会学理論学会第11回大会，一般報告（3），神戸学院大学，2016年9月3日。

○新井大樹

【学会報告】

- ・「死刑存廃論争における世論という論点——『専門家システム』の言論に着目して」第89回日本社会学会大会（於：九州大学）一般研究報告（3）社会病理，2016年10月9日。

○井上恵子

【論文】

- ・「経験のない『民族』を生きるということ——在日コリアン青年の語りから読み解くエスニシティ」『日本オーラルヒストリー研究』第12号，2016，191-205。

○印 粲旭

【学会報告】

- ・印粲旭，2016，「韓国における少年非行の減少傾向に関する考察」第89回日本社会学会大会報告。

○岡村逸郎

【論文】

- ・「犯罪被害者支援に携わる精神科医の2つの『専門性』——精神的被害の管轄権とケアの非対称性に注目して」『福祉社会学研究』13号，pp. 132-53，2016年。
- ・「被害者の有責性の概念からみる犯罪被害者支援の思想基礎——被害者学における2つの議論に注目して——『社会学ジャーナル』第42号，筑波大学社会学研究室，pp. 103-119。

【学会報告】

- ・「犯罪被害者支援と Restorative Justice に関する歴史社会的考察」第89回日本社会学会大会，九州大学伊都キャンパス，一般研究報告（3）社会病理第3報告，2016年10月9日。
- ・「被害者の有責性の概念に関する歴史的考察——被害者学の輸入期における精神医学者の活動に注目して」日本犯罪社会学会第43回大会，自由報告A第3

報告, 甲南大学岡本キャンパス, 2016年10月29日.

- ・「被害者の有責性の概念からみる犯罪被害者支援の思想基礎——被害者学における2つの議論に注目して——『社会学ジャーナル』第42号, 筑波大学社会学研究室, pp. 103-119.

○周 筱

【学会報告】

- ・「法的「二元性」：法社会学中定性分析之思考」(法の「二元性」：法社会学における質的分析の試み)中国・法社会学学会大会 上海交通大学 2016年7月(中国語報告)
- ・「中国の売買春政策にあらわれる「幼女」の二つの秩序をめぐって」犯罪社会学会 甲南大学 2016年10月.

○高橋康史

【著書】

- ・「当事者座談会で明らかになったピア・サポートの可能性と限界」, 安田恵美編, 『URP 先端的都市研究シリーズ 刑務所出所者の更に生きるチカラそれを支える地域のチカラ』, 大阪市立大学都市研究プラザ, 2017年3月刊行予定.
- ・「当事者が語ることの意義, 展望」, 安田恵美編, 『URP 先端的都市研究シリーズ 刑務所出所者の更に生きるチカラそれを支える地域のチカラ』, 大阪市立大学都市研究プラザ, 2017年3月近刊予定.

【論文】

- ・「犯罪者を家族にもつ人びとはいかにしてスティグマを内在化するのか：恥の 범 죄 자 를 부 모 로 둔 아 동 의 회 복 에 관 한 연 구 感情に注目して」『社会学的 관 점 에 서 評論』265巻, 21-38頁, 2016.

【学会報告】

- ・「Narrative approach(犯罪者を親にもつ子どもの回復に関する研究：ナラティブ・アプローチの観点から)」, 2016年度韓国社会福祉学会春季学術大会, 2016年4月29日.
- ・「犯罪加害者家族支援の現状と課題：NPO法人スキマサポートセンターの取り組みから」(企画・発表), 日本司法福祉学会第17回大会, 甲南大学, 2016年8月28日.

○野上 亮

【研究会報告】

- ・「ある地方文学者の実践と挫折—岩下俊作『富島松五郎伝』と直木賞」第90回

叙述態研究会，2016年12月2日，国立オリンピック記念青少年総合センター。

【寄稿】

- ・「筑波の風に吹かれて社会を眺める 清潔の中に潜む抑圧」『東京朝ぼらけ新聞 19号』2017年3月。

○松山礼華

【論文】

- ・「若者の地域参加に向けた組織構造に関する一考察 —千葉県柏市のまちづくり団体を事例に—」『地域社会学会年報』第28集，93-107頁。

○目黒 茜

【翻訳】

- ・エリック・ロパーズ，目黒茜訳，2016，「証言・トラウマ・芸術——戦争と戦後の語りの集合的な分析」好井 裕明・関礼子編『戦争社会学』明石書店。

○李 岱真

【学会報告】

- ・「台湾の少年補導実践における非行少年の逸脱行動をめぐる解釈と援助」犯罪社会学会 甲南大学 2016年10月。